

右之通相違無御坐候也

使(府)縣(郡)區(町)村()

年號月日

戶長姓

名印

長女 某
年號月日生
明治年月何年何ヶ月
次女 某
同同

第二十書式 免役料上納出願書

戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)附籍

姓名

年號月日生

右本年二十歲に相成徵集に可應之處家事故障有之免役料
金二百七十圓上納仕候間何卒國民軍の外兵役御免除相成
度此段奉願候也

何使(府)縣(何郡)區(町)村(何族)職業

姓名印

年號月日

何使(府)縣(縣)徵兵署

御中

前書出願之通相違無御坐候也

年號月日

何郡(區)町(村)戶長

姓

名印

○大藏省甲第百拾貳號

十一月十八日
廿六日

金祿公債證書

百圓

丙か

八壹九九

壹枚

右は愛媛縣平民井原福次郎所有の分盜難に罹候段本年九月廿七日甲第九十四號を以及布達置候處今般發見候條此旨更に布達候事

○大藏省甲第百拾三號

十一月十九日
廿六日

金祿公債證書

五拾圓

丙子

五四九九

壹枚

新潟縣平民

松原彌惣

拾圓 丙れ 自壹五七八 三枚 同 松原佐吉

右は本年九月廿四日甲第九拾壹號を以遺失の旨及布達置候處今般發見候條此旨更に布達候事

○大藏省甲第百拾四號 十一月二日 廿六日

七年發行

秩祿公債證書

貳拾五圓 壹三八五 貳枚 桑名藤馬

右は大坂府下に於て愛知縣下名古屋新道町保井雄二へ預け中同行衛不相分該證書所在不分明の旨届出候條以後右記名種類の證書一切取引を爲す可からず且其所在見聞

の者は速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百拾五號 全日

金祿公債證書

百圓 丙む 四八六七 壹枚

右の山口縣士族兼國慶藏所有の處本年七月二十六日以降紛失れ旨届出候條以後右證書一切取引を爲す可らむ且其所在見聞の者は速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百拾六號 全日

金祿公債證書

五百圓	丙	六八〇參	壹枚	山口縣士族
三百圓	丙	六貳貳九	壹枚	原田方輔
拾圓	丙	自參貳四 至參貳四七	三枚	同
五百圓	丙	七五九五	壹枚	同
百圓	丙	五四九 五五〇〇	貳枚	原田貞介
貳拾五圓	丙	壹七〇七	壹枚	同
舊公債證書				山口縣士族
五拾圓	い	貳四壹四	壹枚	大多和通輔

右種類記名の證書原田方輔宅於て本年八月廿三日以降紛失の旨届出候條以後右證書一切取引を爲す可からず且其所在見聞の者は速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百拾七號 全日

金祿公債證書

百圓	丙	貳參八七	壹枚
五拾圓	丙	四九七	壹枚

右は福島縣士族青田敦陳所有の處紛失は旨本年八月十八日甲第八拾四號を以て及布達置候處今般發見候條此旨更

に布達候事

○工部省第拾六號 十一月十八日 廿六日

今般長崎縣下肥前國五島の内福江島大瀬崎燈臺に於て左の通り第一等旋轉白色の燈明を設け來る十二月十五日の夜より點燈候條此旨布達候事

明治十二年 西曆千八百七十九年 第三號

大瀬崎燈臺

一肥前國五島極南の一島ある福江島西南の極地大瀬崎燈臺に於て第一等旋轉白色の燈明を設け明治十二年十二月十五日 西曆千八百七十九年 十二月十五日 夜を始と一日没より日出迄毎

夜點燈と

一該地は英國海軍局第三百五十八號の海圖に依るば北緯三十二度三十六分四十五秒にして「グリーンコッチ」より東經百二十八度三十六分六秒に當る
一燈臺の鐵造白色に於て基礎燈より燈火に至る迄高さ三丈六尺五寸あり
一燈明は第一等旋轉白色に於て半分時毎に一閃光を發せ海面二百三十四度十五分を照輝し一方は南五十八度五十三分東又一方は北四度三十八分西の方位にて蔽陰す但し右は眞方位あり

一燈火は海面より高さ二十六丈五尺に晴天は時其光線凡
二十二里半海里に達す

○乙第百十八號 全十七日

郡町村役所

軍人軍属免除歸省並に諸何願書類は之れに附屬の別紙に
至る迄總て正副可差出等の處問々一通のみ差出候向も有
之取扱上差支候旨其筋よ照會有之候條自今は必ず正副
兩通爲差出候様可致此旨相達候事

○乙第百拾九號 全日

郡役所

徴兵適齡者戸主は届出後身分は變換とるときは所轄郡役
所の認可を受べき旨今般甲第百七十八號を以て布達候事

付て右申出有之を調査れ上認可を徴兵諸調簿進達前は
直に引直之若其以後係らば其時々當廳へ報告とべ
此旨相達候事

○乙第二百二十號

全廿五日

郡町村役所

明治十一年本縣乙第六十九號を以て相達候内務大藏兩
省布達金祿公債証書保護手續書第二條及び第三條中買上
かに關する件本年十二月限り被廢候條金祿公債証書相渡
候者へ可申達此旨相達候事
○乙第二百二十一號 全廿八日

郡町村役所

本年乙第二百十二號達書經費明細簿雛形中運送費郵便稅書
式左の通り改正候條此旨相達候事

一金何程

運送費

何月何日何品何所へ遞送賃何程 何月何日何月何日
何々何所へ遞送二度此賃何程

一金何程

郵便稅

何所より何所へ公用狀何度此稅金何程 何所より
何所へ公用狀何度此稅金何程 何所より本村役所へ
公用狀郵便別仕立賃何度此金何程

乙二二

布達之寫

○丙第三十二號 全一日

郡町村役所

社寺領上地の内相當代價拂下げに儀聞届々區候分地券証
下渡之候條一昨十年乙第百貳號達離形に照準証印稅取調
置券狀受取の節持參可致此旨相達候事

○丙第三十三號 全廿五日

郡町村役所

自今縣社以下祠官祠掌進退の義該社氏子惣代及び隣社神
官二名以上連署出願候上は直に願書及指令候條豫て神官
並に氏子共へ相心得させ置くべ之此旨相達候事

但氏子無之向は其地崇敬人より本文の手續を以て願出
さすべ之

○丙第三十四號 全廿六日

郡町村役所

今般第四十六號公布徵兵令改正に付取扱方手續陸軍省よ
り別紙に通り達し有之候條爲心得此旨相達候事

別紙

第一項 徵兵令第二十八條項目中第一項第三項及び第
四項但書並びに第二十九條第一項但書に當る者は徵
兵令改正布告即ち本年十月廿七日を以て區分とな之
同日前已に戸主とあり或ひは年齢五十歳以上の者の

布達之寫

乙三

嗣子或ひは承祖の孫又は五十歳以上にえて嗣子無者の養子嗣子或ひは相續人となり又は年齢五十歳未満の者の嗣子或るひは承祖の孫とありたる者は國民軍の外兵役を免ま或ひは平時に於て兵役を免し同日以後係る者は總て徴集に應せまひべま

第二項 徴兵令第三十三條お揭示の尙令第二十八條第四項第六項第八項第二十九條第四項乃至第十項及び第三十條第六項第七項お當る者は徴兵令改正布告即ち本年十月二十七日を以て區分となま同日以前に係る者は該項に據り免役又は猶豫とま同日以後に係る

者の徴集に應せまひべま

第三項 從來翌年回徴兵は徴兵令第三十四條お準ト之を調査とべま

但徴集規避の見認ある者は本條の限に非ず

第四項 徴兵令第六十七條の定規の届け出を怠る者は本年其届出の時限既に経過するを以て之を同條に當てずえて尋常の徴兵同様取扱ふべし

第五項 本年國民軍籍に入る者は文久二壬戌年二月より文久三癸亥年正月迄に出生の者を相當とす此人員中文久二年二月より十二月迄出生の者の昨十一年已

に管轄廳に於て調査濟あるを以文久三年正月申出生の者のみ本年之を調査せ而て來十三年同軍籍に入る者は文久三癸亥年二月より元治元甲子年迄に出生の者を以て相當とし爾後年々此例に依り調査すべし

第六項 來十三年の徴兵の安政六己未年二月より萬延元庚申年正月迄に出生の者を相當とす此人員中安政六年二月出生の者は本年の徴集に應せざるを以て同年三月月萬延元正月迄に出生の者を調査せ而て明治十年の徴兵は萬延元年申年二月月文久元辛酉年正月迄に出生の者を以て相當とす爾後年々此例に據り調

とべま

山梨縣衛生報告第二十九號

明治十二年十一月廿一日發行

雜報

○本年虎列刺病の猖獗逞うまたるや最初愛媛縣下に於て春より流行せ夏に至漸次に蔓延して遂に日本國一般に流行せり而て我縣下に傳播せるは八月廿一二日の比にて南都留郡谷村に於て一人の患者あり夫より暫時に於て北都留郡に播傳せ病者頗る多し今般流行せたる虎列刺の病勢は甚だ猛烈にして之れに傳染せて死する者殆ど其

半に居る實に毒焰の安政度の流行よりも劇烈なり去ことは皆人の知る處なり(發病后二三時に去く)抑も此の病の縣下に流行するや本年は南北都留郡東八代郡にのみ止まり偶々他郡に之れあるも皆散在症にして大に蔓延せざり去は一は豫防の嚴重あると一は各人攝生を固守せると一は寒冷の氣候に至り病毒自然に熄滅するに由ると雖も決して此の病毒の消滅せたるものに非ず尙ほ何れの處にの潜匿を來春温暖の時に至れば再び毒芽萌動きて病勢を逞くするものあらん如何と去を安政の度の如く四年に初めて續かに該病に罹る者あり翌五年に至り大に流行去て

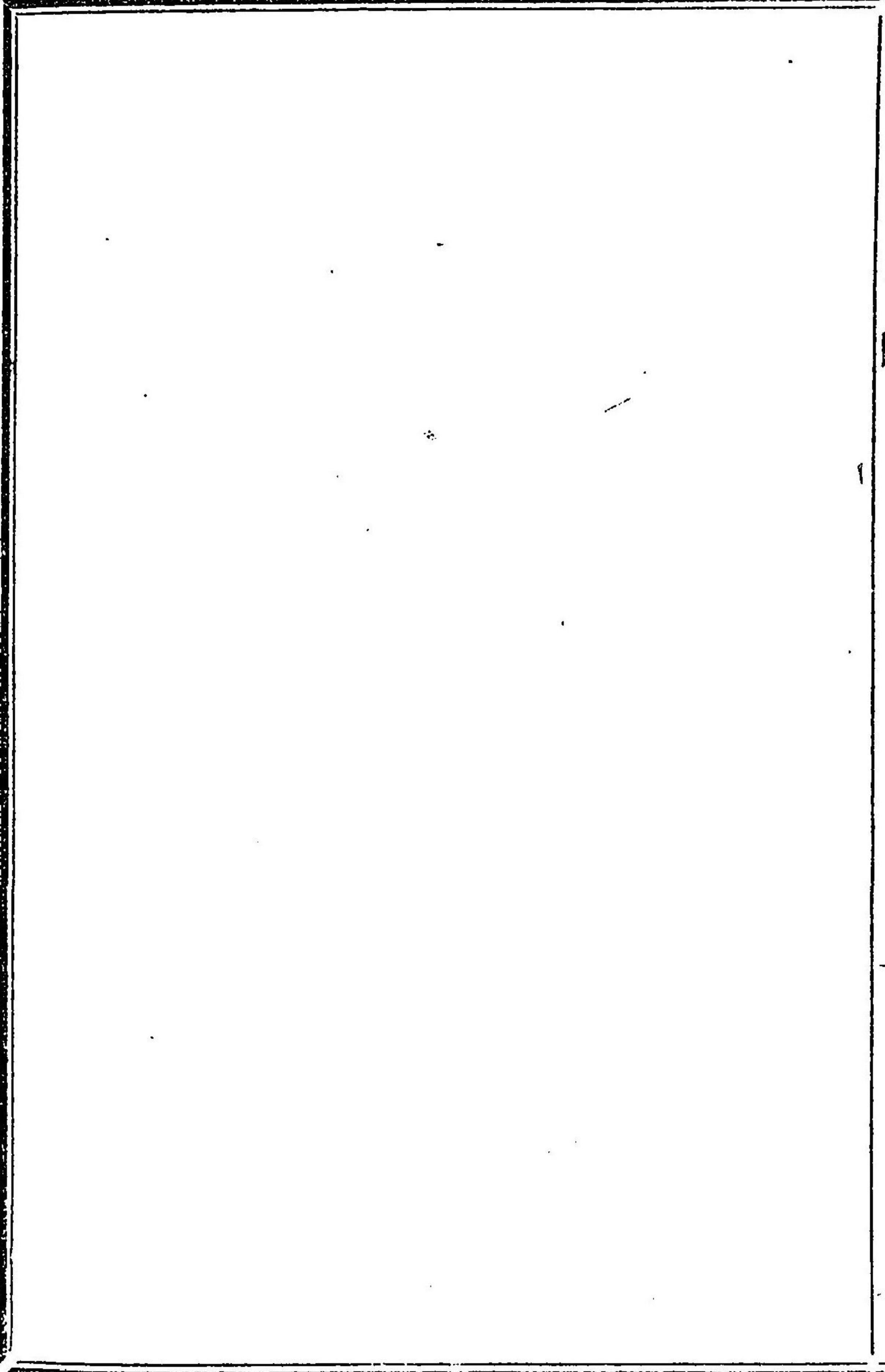
日本國中に蔓延去其猖獗の毒勢と撲滅するに能はざるを以て死する者數十萬れ多に及ぶ其後該病の種子我が日本國所在に潜匿去て絶ゆる期亦く年々流行するの地方一二ヶ處あるを聞見と本年の流行の如きは實に一昨十年西南戦争の後西國に流行したるの種子本年に至り氣候の媒介と不攝生者の媒介とを得て病毒燃熾の勢と逞ふしたるものなり彼の時若去流行地に於て充分の消毒法を施行せば本年の如き慘狀は無るべしと信ずされば該病は本年のみにて消滅去たる者と思へからず若人之を忽諸に於る時は必去來年再發すること疑を容れず由て各人注意去て消毒

法を行ひ豫防衛生を守り溝渠、下水、園圃、家屋等の掃除は寒
 氣の間に屢々行家屋の周圍に汚水、溜り又木葉塵芥等
 の堆積するあれば早く之を取り除へき其他萬事に注意を
 て來年惡疫の再發を防禦する事を怠るべからせ特に飲食
 物は假令寒冷の候と雖も確く守るべき不衛生なる時は不
 測の病を誘發す其一例を示さん本月廿三日或る人鱧の
 少く餘をたるを食ふ該病を誘發して終に命を殞せり故と
 以て家内の愁嘆一方あらせと雖も原と之れを食する者の
 不注意も出るものあり慎ませんばあるべからず聞く此頃
 東京地方衛生會に於て本年虎列刺病漸々消滅に至ると雖

も來年の再發を恐るゝ故に今より嚴重に防禦策を施行せらるゝと

因曰本年虎列刺病流行以來縣下に他病患者の其數の減
 少したるは昨十一年に比較せれば是れ各人該病を恐るゝ飲
 食衣服等に注意を盡し衛生を守りたる効驗に由るべし之
 處に反てて本年該病に罹り多く死する者を見るに大抵
 皆亦平生飲食の不注意、居所の不潔、身才の不潔等に本
 者あり之に由て之と考ふれば衛生は人々一日も忽諸に
 之べからざるもれとす

和蘭之類



(定價金三十錢)

甲府常盤町四番地

傍訓並出版人 内藤傳右衛門

明治十三年二月

明治十二年十二月

やまがは ちやうけん おふれ れうつし

名 兩
附 假

山梨縣布達之寫

甲府常盤町四番地

又新社

發兌

新報

- 本縣甲第七十九號より百八十九號に至る
- 太政官第四十七號
- 大藏省甲第百十八號より百三十四號に至る
- 文部省第八號
- 工部省第十七號
- 乙第百廿二號より百三十二號に至る
- 丙第三十五號
- 衛生報告第三十號

兩假 やまかみけん 山梨縣布達之寫 だつのうらふ 索引 明治十二年 十二月

- 甲第百七十九號 十二月四日 告訴發吟味願共以後警察署本署及谷村警察署に限り受理す 同丁
- 大藏省甲第百十八號 十一月廿七日 本縣十二月四日 秩祿公債証書所在不相知 同丁
- 大藏省甲第百十九號 十一月廿八日 全十二月四日 金祿公債証書盜難不分明 同丁
- 大藏省甲第百廿號 十一月廿八日 全十二月四日 同斷襪欺取 三丁
- 大藏省甲第百廿一號 十一月廿八日 全十二月四日 同斷盜難 同丁
- 本縣無號 全五日 大書記官宜下 同丁
- 甲第百八十號 全六日 警察署所轄町村別表改正 同丁

- 本縣甲第七十九號より百八十九號に至る
- 大政官第四十七號
- 大藏省甲第百十八號より百三十四號に至る
- 文部省第八號
- 工部省第十七號
- 乙第百廿三號より百三十三號に至る
- 丙第三十五號
- 衛生報告第三十號

兩假 やまがら 山梨縣布達之寫 やまがらけんふたつのおづら 索引 明治十二年 十二月

- 甲第百七十九號 十二月四日 告訴發吟味願共以後警察署本署及谷村警察署に限り受理す 同丁
- 大藏省甲第百十八號 十一月廿七日 本縣十二月四日 秩祿公債証書所在不相知 同丁
- 大藏省甲第百十九號 十一月廿八日 全十二月四日 金祿公債証書盜難不分明 同丁
- 大藏省甲第百廿號 十一月廿八日 全十二月四日 同斷被欺取 三丁
- 大藏省甲第百廿一號 十一月廿八日 全十二月四日 同斷盜難 同丁
- 本縣無號 全五日 大書記官宜下 同丁
- 甲第百八十號 全六日 警察署所轄町村別表改正 同丁

- 大藏省甲第百廿二號 全 十二日 起業公債証書被盜取 同丁
- 大藏省甲第百二十三號 全 十二月三日 金祿公債証書盜難紛失 同丁
- 大藏省甲第百十四號 全 同日 同斷盜難之處發見 五丁
- 甲第百八十一號 全 十三日 酒類受賣營業鑑札紛失 六丁
- 甲第百八十二號 全 同日 四等巡查宮卯一郎手帖遺失 同丁
- 大藏省甲第百十五號 全 十二月十日 舊公債証書紛失 七丁
- 甲第百八十三號 全 十五日 明治九年本縣甲第九十一號布達廢 同丁
- 大政官第四十七號 十二月十三日 大審院職制第一項へ但書追加 同日

- 大藏省甲第百廿六號 全 同日 第百五十三國立銀行紙幣發行 同丁
- 大藏省甲第百廿七號 全 同日 金祿公債証書被盜取 八丁
- 大藏省甲第百廿八號 全 同日 同斷盜難 同丁
- 大藏省甲第百廿九號 全 同日 同斷 九丁
- 甲第百八十四號 全 廿日 學務委員撰舉法 同丁
- 大藏省甲第百三十號 全 十二月十八日 秩祿公債証書所在不明 同丁
- 大藏省甲第百三十一號 全 同日 金祿公債証書不分明之處發見 同丁
- 大藏省甲第百三十二號 全 同日 同斷紛失 同丁

○文部省第八號

十二月九日 教育令第九條但書の件

同丁

○本縣無號

全廿四日 大書記官着縣

十二丁

甲第百八十五號

全廿五日 春日居村田中喜太郎地
巻証被盜取

同丁

○甲第百八十六號

全日 相生町渡邊好章賣藥鑑札
醫業鑑札私盜取

同丁

○甲第百八十七號

全廿六日 米商會所賣買米の件

十三丁

○工部省第十七號

十二月廿日 陸奥國尻矢崎燈臺蒸氣
霧笛設置

同丁

○大藏省甲第百三十三號

十二月廿三日 舊貨幣新貨と交換延期
日全廿七日

十四丁

○大藏省甲第百三十四號

全日 金祿公債証書所在不分明

同丁

○甲第百八十八號

全日 帶勳有位の輩參賀の件

同丁

○甲第百八十九號

全日 徴兵適齡者身分變換
の節申出の件

十五丁

全乙號

索引

○乙第百廿二號

全五日 官林十等監守人名

同丁

○乙第百廿三號

全十七日 共武政表説明並びに
雛形改正

同丁

○乙第百廿四號

全十九日 警察署職制並に事務
章程定

十八丁

布達之寫

索引三

○乙第百廿五號	全 廿三日	持廻興行物滿期の節許可 またる郡役所於税金徴収	廿二丁
○乙第百廿六號	全 廿四日	戸籍總計書式中改正	廿二丁
○乙第百廿七號	全 日	官林十等監守人名	廿三丁
○乙第百廿八號	全 廿五日	同斷	同丁
○乙第百廿九號	全 廿六日	椽木縣人民各縣下へ寄留の者此件	同丁
○乙第百三十號	全 日	布告布達書記達此件	廿四丁
○乙第百三十一號	全 日	本年乙第十四七號達書 第一項改正	同丁
○乙第百三十二號	全 廿七日	本年乙第百十九號達書消滅	同丁

○丙第三十五號 全 十三日 社寺遞減錄の件 同丁

○本縣衛生報告第三十號 全 廿七日

○甲第百七十九號

十二月四日

是迄告訴發吟味願共渾て各警察署於て受理致來候處以
後吟味願は警察本署及び谷村警察署に限り受理致候條南
北都留兩郡は谷村警察署其他各郡は渾て警察本署へ出願
可致此旨布達候事

○大藏省甲第百十八號

十一月廿七日
本縣 十二月四日

八年發行

秩祿公債證書

三百圓り 七八九九 壹枚

東京府下寄留
兵庫縣士族

本山勝馬

五十圓 九〇八三 壹枚 同 名

右は東京府下寄留高知縣平民間盛四郎へ預け中同人失踪にて該證書所在不知旨届出候條以後右記名種類の證書一切取引を爲す可からず且其在所見聞の者は速かに管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百拾九號 十一月廿八日 全十二月四日

金祿公債證書

五百圓	丙	原	五	五〇〇	壹	八	五	貳	枚
三百圓	丙	原	至	四	參	貳	參	壹	三
			自	四	參	貳	參	壹	枚

百圓	丙	原	至	四	四	四	四	四	四	參	參	參	貳	四	枚	
			自	四	四	四	四	四	四	參	參	參	貳	枚		
五十圓	丙	原	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	〇	八	七	三	枚		
			至	壹	壹	壹	壹	壹	壹	〇	八	七	三	枚		
貳拾五圓	丙	原	至	壹	壹	壹	壹	壹	壹	五	五	四	九	四	枚	
			自	壹	壹	壹	壹	壹	壹	五	五	四	九	四	枚	
拾圓	丙	原	至	參	參	壹	壹	壹	壹	九	九	九	九	七	三	枚
			自	參	參	壹	壹	壹	壹	九	九	九	九	七	三	枚
			至	參	參	四	四	四	四	八	四	四	四	九	七	枚
			自	參	參	四	四	四	四	八	四	四	四	九	七	枚

布達之寫

甲二

至	自
參	參
貳	貳
九	九
九	九
七	七
參	參
貳	貳
七	七
七	七
參	參
六	六
六	六
六	六
六	六
參	參
六	六

三枚
六枚

右は福島縣下於て第四拾四國立銀行岩橋輔買受同人記
 名 縣廳檢印濟東京へ携帶の途中本年十月廿八日椽木縣
 下宇都宮驛於盜難

東京府士族
 中村由承
 伊丹成行

百圓 丙 貳七六五 壹枚
 三百圓 丙 參參五六 壹枚

右は東京府下金吹町阿部保へ預け中同人失踪證書所在
 不分明

前書の通り届出候條以後右種類記名に證書一切取引を爲
 す可からせ且其所在見聞の者は速々に管轄廳へ訴出管轄
 廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百貳拾號 十一月廿八日
 十二月四日

金祿公債證書

五百圓	丙	壹	壹八九	壹枚
三百圓	丙	八	八四五	壹枚
百圓	丙	四	五四四	壹枚

貳拾五圓

丙

七八貳九

壹枚

右之福岡縣士族熊井作太郎所有の處本年四月中被欺取候旨今般届出候條以後右種類の證書一切取引を爲す可からず且其所在見聞の者は速かに管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百貳拾壹號 十一月廿八日 十二月四日

金祿公債證書

拾圓

丙

自四貳〇〇八

三枚

右は長崎縣士族豊永密治記名比分盜難に罹り候段本年十月十日甲第百貳號を以て及布達置候處今般發見候條此旨

山梨縣警署

署名		警署名		位置		所轄郡名	
石和	鵜飼村	東八代	西山梨	市川	市川大門村	西八代	南巨摩
右左口	豐富村	東八代		南部	睦合村	西八代	南巨摩
鵜澤	鵜澤村	南巨摩		小笠原	明穗村	中巨摩	
小淵澤	小淵澤村	北巨摩		臺ヶ原	菅原村	北巨摩	
若神子	若神子村	北巨摩		韭崎	河原部村	北巨摩	
押原	押原村	中巨摩		久保	久保町	西山梨	中巨摩
甲府	相生町	西山梨					

吉田	谷村	上ノ原	猿橋	初狩	勝沼	七里	平等	石和	右左口	市川	南部	鰍澤	小笠原	臺ヶ原	小淵澤	若神子	韭崎	押原	久保	甲府
福地村	谷村	上ノ原村	大原村	初狩村	勝沼村	七里村	平等村	鵜飼村	豊富村	市川大門村	睦合村	鰍澤村	明穂村	菅原村	小淵澤村	若神子村	河原部村	押原村	久保町	相生町
東八代	南都留	北都留	北都留	北都留	東八代	東山利	東山利	西山利	東八代	西八代	南巨摩	南巨摩	中巨摩	北巨摩	北巨摩	北巨摩	北巨摩	中巨摩	西山利	中巨摩

本縣警察配置一覽表

所轄町村名

置	所轄		町	村	名
	郡	名			
生町	西山梨	相生	彌生	相生	相生
		城屋	飯沼	三上	飯沼
		泉	稻門	住吉	住吉
		豐住	貢川	池田	龍王
		久保	新柳	御崎	白木
		壘	元穴山	廣庭	元袋
		元紺屋	元城屋	新紺屋	愛岩
		千塚	福岡	陸澤	清川
		松島	福岡	陸澤	清川
		宮本	吉澤		
保町	西山梨	元袋	元三	元袋	元袋
		元三	元袋	元三	元袋
		元袋	元三	元袋	元三
		元三	元袋	元三	元袋
		元袋	元三	元袋	元三
		元三	元袋	元三	元袋
		元袋	元三	元袋	元三
		元三	元袋	元三	元袋
		元袋	元三	元袋	元三
		元三	元袋	元三	元袋
原村	中巨摩	押原	富田	大里	二川
		三條	小井川	常永	玉幡
		河原部	鹽崎	登美	穂坂
		中田	穴山	駒井	祖母石
		若神子	穂足	朝神	東向
		安都玉	安都那	熱見	甲
		江草	増富	豊田	津金
		清哲	神山	旭	大草
		小笠原	三倉	更科	下條
		忍	花輪		
原村	北巨摩	菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
		菅原	新富	武里	圓野
原村	北巨摩	明穂	大井	五明	南湖
		下今諏訪	上今諏訪	豐	西野
		源	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
		平林	蘆安	神	野々瀬
原村	北巨摩	小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
		小淵澤	笹尾	清春	日野春
原村	北巨摩	陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
		陸合	豐岡	身延	福居
原村	北巨摩	市川大門	上野	大塚	九一色
		羽鹿島	楠甫	岩岡	落合
		三保	大磯小磯	根子	中倉
		道	切房木	車田	共和
		道	切房木	車田	共和
		道	切房木	車田	共和
		道	切房木	車田	共和
		道	切房木	車田	共和
		道	切房木	車田	共和
		道	切房木	車田	共和
原村	北巨摩	豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
		豐富	下會根	上會根	白井河原
原村	北巨摩	高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
		高家	竹居	奈良原	岡
原村	北巨摩	東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
原村	北巨摩	東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
原村	北巨摩	東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根
		東八代	上盧川	下會根	上會根

勝沼 等々力 日川 初鹿野 鶴瀬 綿塚 菱山 小左手 山

地村	南都留	北都留	北都留	北都留	東八代	東山梨	東山梨	東山梨	西山梨	東八代	東八代	西八代	南巨摩	中巨摩	北巨摩	北巨摩	北巨摩	中巨摩	中巨摩	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮	
東八代	南都留	北都留	北都留	北都留	東八代	東山梨	東山梨	東山梨	西山梨	東八代	東八代	西八代	南巨摩	中巨摩	北巨摩	北巨摩	北巨摩	中巨摩	中巨摩	千塚	松島	福岡	陸澤	清川	宮本	吉澤	磯	忍	花輪
西	成澤	上原	大原	初狩	日影	勝沼	七里	岩手	甲運	五成	上盧川	市川大門	湯島	平林	菅原	小淵澤	安都玉	河原部	三條	松島	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
湖	福地	島田	賑岡	廣里	田野	息	松里	春日居	岡部	圭林	下曾根	上野	伊沼	蘆安	新富	笹尾	安都那	鹽崎	小井川	福岡	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	大嵐	巖	富濱	笹子	木賊	等々力	柚ノ木	岡部	上方力	富士見	上曾根	大塚	飯富	柳	武里	清春	熱見	登美	常永	陸澤	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	勝山	大鶴	七保		祝	日川	釜川		八幡	玉田	白井河原	九一色	曙	野々瀬	圓野	日野春	甲	祖母石	玉嶋	清川	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	明見	甲東	大目		相興	初鹿野	日下部		西保		藤坐	印澤	本建	川上	駒城	秋田	江草	清哲	鎌田	宮本	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	瑞穂	桐原	梁川		一櫻	鶴瀬	加納岩		中收		寺尾	高田	五箇	塚原	鳳來	大泉	增富	神山	稻積	吉澤	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	大富	西原			國立	綿塚	後屋敷		諏訪		瀧川	山家	硯島	湯澤	片	小泉	豐田	旭	磯	忍	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	河口	小菅			御代咲	菱山	奥野田		諏訪		鷺宿	八ノ尻	都川	秋山	清春村内	大泉	津金	大草	龍岡	花輪	元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	大石	桂			石慮	小佐手	玉宮		釜和原		中蘆川	河頭	三	落合	大武川	清里	龍岡	下條			元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮
	長濱	寶				山						豐和	夜子澤								元新屋	元城屋	新新屋	愛宕	盛部	和川	千代田	能泉	大宮

更^きふ布達候事

○無^な 號

全五日

判事從六位薄井龍之

任山梨縣大書記官

右本月二日 宣^{せん}下^げ相成候條此旨布達候事

○甲第百八十號 全六日

西^{せい}山^{さん}梨^り郡^{ぐん}甲^が府^ふの警^{けい}察^{さつ}本^{ほん}署^{しょ}を置^おき従^{じゆん}來^{らい}の警^{けい}察^{さつ}分^{ぶん}署^{しょ}を渾^とて警^{けい}察^{さつ}署^{しょ}と改^か稱^{せう}せし所^{ところ}轄^{かつ}町^{ちやう}村^{むら}別^{べつ}表^{へう}の通^{とほ}り改^か正^{せい}候^{こう}條^{じょう}此^{こゝ}旨^{しむい}布^ふ達^{たつ}候^{こう}事^じ
但^{たゞ}警^{けい}察^{さつ}本^{ほん}署^{しょ}は當^{あた}分^{ぶん}縣^{けん}廳^{てい}内^{ない}に設^{せつ}置^ち候^{こう}事^じ

○大藏省甲第百貳拾貳號 全六日

十二月二日

布達之寫

起業公債證書無記名

百圓 第五號 四六七四番 壹枚 岡田惇佑分
 百圓 第五號 四六七五番 壹枚 宗像觀象分
 百圓 第五號 四六七六番 壹枚 岡田新藏分

右は廣島縣下賀茂郡内海村平山久四郎へ預け中去る十月十九日夜盜取られ候旨届出候條以後右の證書一切取引を爲す可からせ且其所在見聞れ者ハ速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百二十三號 二月三日 八日

金祿公債證書

東京府士族

五百圓 丙ハ 八貳參參 壹枚 布施田高久

三百圓 丙ガ 參壹參四 壹枚 同 名

百圓 丙ニ 八〇四 壹枚 同 名

右は本年十一月十九日盜難

新潟縣士族

三百圓 丙サ 九六九 壹枚 大木淳四郎

右は本年十月十九日紛失

前書の通り届出候條以後右種數記名の證書一切取引を爲す可からせ且其所在見聞の者は速かニ管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百貳拾四號 十二月三日
全八日
金祿公債證書

千圓	乙	六六九參	壹枚	長崎縣士族
五百圓	丙	四五貳	壹枚	北條新三郎
百圓	丙	八四五參	貳枚	三重縣士族
貳拾五圓	丙	五〇〇壹	壹枚	酒井秀稚
拾圓	丙	自八六參〇七 至八六參〇七	四枚	同
七年發行				同名

秩祿公債證書

百圓	は	印	三三九七七三 三九七七八	三枚	三重縣士族
五拾圓	は	印	三三三六一 三三三六二	貳枚	酒井秀稚
貳拾五圓	に	印	六六四四五 六六四五六 六六四六五 六六四七四 六六四八三 六六四九二	四枚	同

右は東京府下酒井秀稚宅於て盜難の旨本年十月三十一日
甲第百六號を以て及布達置候處今般發見候條此旨更に布
達候事

布達之寫

○甲第百八十一號全十三日

北巨摩郡甲村酒類受賣營業入中澤郡治郎へ兼て下附致去
置候第一〇六五八六號酒類受賣營業鑑札自宅於て紛失候
旨届出候に付右記號名前の鑑札所在見聞の者は速かに最
寄警察署へ可届出此旨布達候事

○甲第百八十二號全 日

本縣四等巡查宮卯一郎儀明治十二年十二月四日甲府市中
巡行の際兼て相渡置候印章及び警保課印押捺有之手帖遺
失候旨届出候に付右所持比者見聞候は、最寄警察署へ可
届出此旨布達候事

○大藏省甲第百二十五號 十二月十日
全十五日

舊公債證書二十五圓ふ印七貳貳番二枚右は東京府下渥美
繁所有の處於自宅紛失致し候旨届出候條以後右の證書一
切取引を爲さべからず且其所在見聞の者は速かに管轄廳
へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○甲第百八十三號全十五日

明治九年三月本縣甲第九十一號布達相廢し候條此旨布達候
事

○太政官第四拾七號 十二月十三日
全十七日

明治十年二月第拾九號布告中大審院職制第一項へ左の通り

但書追加候條此旨布告候事

院長は課を分ち主任を命ト云々

但院長事故あるときは上席判事を以て代理せまむ
るよとを得

○大藏省甲第百貳拾六號 十二月十三日
全十七日

今般國立銀行條例を遵奉し京都府下上京區第廿二組錦砂
町二百八十五番地に設立せたる第百五十三國立銀行に於
て公債證書を抵當とせ更に引換準備金を置き銀行紙幣を
發行せしめ右本店に於て通貨を以て交換爲致候條公債證
書の利足と海關稅を除の外租稅其他一切公私の取引上總

て無疑念授受可致此旨布達候事

阻右紙幣は儀は明治十年十二月第九十號同十一年七月第十
六號布告は品と同一ふ付別段見本相添へざる事

○大藏省甲第百貳拾七號 十二月十三日
全十七日

金祿公債證書

- 三百圓 丙迄 八四貳 壹枚
- 貳拾五圓 丙以 八四〇六 壹枚
- 拾圓 丙係 自五一九四 四枚
至五一九七

右は和歌山縣士族川口嘉助所有の處本年九月十五日夜被
盜取候旨今般届出候條以後右種類は證書一切取引を爲す

可からず且其所在見聞の者は速かお管轄廳へ訴出管轄廳
よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百貳拾八號 十二月十三日
全十七日

金祿公債證書

三百圓 丙子 貳九壹九 壹枚
貳拾五圓 丙子 五五五 壹枚
拾圓 丙子 七九四貳 壹枚

右は石川縣士族浦島照太郎所有に處本年十一月廿一日盜
難に罹り候段届出候條以後右種類の證書一切取引を爲そ
可からず且其所在見聞の者は速かに管轄廳へ訴出管轄廳

よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百貳拾九號 十二月十三日
全十七日

金祿公債證書

百圓 丙子 六參〇參 壹枚

右は秋田縣士族石山慎助所有に處本年十一月二十二日盜
難に罹り候段届出候條以後右證書一切取引を爲そ可から
ず且其所在見聞の者は速かに管轄廳へ訴出管轄廳よりは
即ち當省へ可届出此旨布達候事

○甲第百八十四號 全廿日

本年第四十號公布教育令第十條學務委員の儀は本縣本年

布達之類

第四十五號布達戸長撰舉法に依准て來明治十三年一月十五日限り撰舉致し戸長より郡役所を経て開申とて之
 但右撰舉法中其町村とあるは該委員撰舉に於ては其學校所屬内は儀と心得べし且郡長郡書記の擔任に係る事件は渾て戸長に於て擔當すべし
 學務委員決定以上は従前の學區取締學校幹事事務掛は解職の儀と心得べし
 右布達候事

○大藏省甲第百三拾號 十二月十八日 全廿三日
 八年發行

秩祿公債證書

千圓	乙	六八貳七	壹枚	東京府士族	伊賀氏理
三百圓	け印	自四三五八	六枚	東京府士族	伊賀氏理
百圓	ふ印	七六四八	壹枚	東京府士族	伊賀氏理
百圓	あ印	七六四八	壹枚	東京府士族	伊賀氏理
百圓	へ印	自七七八〇 至七八四〇	三枚	東京府士族	伊賀氏理
五拾圓	な印	九〇五〇	貳枚	東京府士族	伊賀氏理
貳拾五圓	せ印	五七六四	壹枚	東京府士族	伊賀氏理
金祿公債證書				東京府士族	伊賀氏理

布達之寫

百圓 丙 八九五六 壹枚 同 名

拾圓 丙 四八九〇 壹枚 同 名

右は本年十一月中於自宅紛失

百圓 丙 貳六四四 壹枚 澤田多美

右は東京府下寄留鹿兒島縣士族池田藤藏へ預け中同人

失踪證書所在不明

前書の通り届出候條以後右種類記名の證書一切取引を爲

そ可からせ且其所在見聞の者は速かに管轄廳へ訴出管轄

廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○大藏省甲第百三十壹號 十二月十八日 全廿三日

金祿公債證書

東京府士族

百圓 丙 貳七六五 壹枚 中村由承

三百圓 丙 參參五六 壹枚 伊丹成行

右は東京府下金吹町阿部保へ預け中同人失踪證書所在不

分明の旨本年十一月廿八日甲第百拾九號を以て及布達置

候處今般發見候條此旨更に布達候事

○大藏省甲第百三拾貳號 十二月十八日 全廿三日

金祿公債證書

拾圓 丙あ 自壹貳五八 三枚 至壹貳六〇

右は長野縣士族松澤力三郎所有の處本年五月中より十一月廿九日迄の間紛失れ旨届出候條以後右證書一切取引を爲可からせ且其所在見聞の者は速かに管轄廳へ訴出管轄廳よりは即ち當省へ可届出此旨布達候事

○文部省第八號 十二月十九日 全廿四日

教育令第九條但書町村人民の公益たるべき私立小學校は兒童の就學に便し學期等公立小學校と同様にて學料課程等都て其町村人民に於て公益とあし而して府知事縣令に於て公益と認めたるものと可心得尤も該小學校の教則

は府知事縣令より文部卿へ開申可致此旨布達候事

○無號 全廿四日

當縣大書記官河井龍之儀本月廿日若縣候條此旨布達候事

○甲第百八十五號 全廿五日

甲斐國山梨郡春日居村桑戸組 第百八十三番

持主

一宅地三畝廿壹步

田中喜太郎

此地價金拾四圓四拾七錢壹厘

前記田中喜太郎所有れ地券証本年五月中被盜取候旨届出候間同人へは更に券狀授與候條右被盜取たる券狀は以後無効のものと可心得且其所在見聞の者は最寄警察署へ

速かに可申出此旨布達候事

○甲第百八十六號全日

内務省
第七九六七四號

賣藥營業鑑札

一枚

但藥名龍麝丸

本縣
第十七號

醫藥鑑札

一枚

右は西山梨郡相生町渡邊好章所有の處本年八月六日夜於
自宅被盜取候旨届出候に付右記號の鑑札所在見聞の者は
速かに最寄警察署へ可届出此旨布達候事

○甲第百八十七號全廿六日

東京其他於て設立せる米商會所並に仲買人に於て支社
分店及び出張所等を設け其業務取扱候儀は勿論右仲買人
及び賣買人の依頼を受け其仲間に立ち該會所買買米の紹
介を爲せ等の所業は一切不相成等に候條此旨布達候事

○工部省第十七號 十二月廿日
全廿七日

今般青森縣下陸奥國尻矢崎燈臺に於て左の通り壹箇の霧
笛を設置候條此旨布達候事

明治十二年 西曆千八百七十九年 第四號

尻矢崎燈臺蒸氣霧笛

一 陸奥國尻矢崎燈臺に於て一箇れ蒸氣霧笛と設置せり

一 尻矢崎は津輕海峽の入口にまて陸奥國東北極の一岬なり

一 霧笛は降霧或ひは密雪等のため日間近傍の陸地不分明なるか或ひは夜間燈明見へ難き時之を吹鳴すべし

一 霧笛は每一分時を隔て六秒時間の轟聲を發せ尤蒸氣未騰あるか或ひは不意の事變に依りて霧笛を吹鳴するこ

と能はざる節は燈臺外縁に懸置せる霧鐘を兼て布達せ

之如く一分時間毎に十五度宛の割合を以て打鳴すべし

○大藏省甲第三百三十三號 十二月廿三日 全廿七日

舊貨幣新貨と交換並に公納の儀明治十一年十二月當省甲第六十七號布達を以て本年十二月迄延期候處尙詮議れ次第有之退て相達候迄令延期候條此旨布達候事

但交換代金の儀は昨明治十一年九月當省乙第四十二號建の通候事

○大藏省甲第三百三十四號 十二月廿三日 全廿七日

金祿公債證書

五百圓	丙陸	三九壹枚
三百圓	丙壱	壹〇五參枚

○甲第百八十八號全廿七日
明治十一年第三十六號二百五十八號 當縣甲第 公布帶勳有位の輩參賀定則第二項非役勳七等以下同正七位以下の輩地方廳へ新年參賀の儀は毎年一月一日午前第九時と相定候此旨布達候事

○甲第百八十九號全日
例年徵兵適齡に者翌年徵兵使檢査濟迄に身分に變換せるときは申出方之儀ふ付本年甲第百七十八號布達之趣も有之候處其後陸軍省布第二號を以て徵兵事務條例布達相成候ふ付ては同條例第十八條及び第十九條掲示に通り取計候義と可心得此旨布達候事

但免役に係る異動を生ずる者は凡て徵兵署開設のとき出願同署の指令に應ぜべし
○乙第百二十二號 十二月五日

郡町村役所

内務省山林局本縣出張所に於て左の兩名の者官林十等監
守申付候趣通報有之候條爲心得此旨相達候事

東八代郡藤野木村平民

加藤隆鑑

南巨摩郡陸合村平民

若林成基

○乙第百二十三號全十七日

郡町村役所

本年四月乙第六十一號を以て相達候共武政表編纂の義猶
陸軍省より達の趣も有之説明並に雛形共別紙に通り改正
候條來明治十三年調より右に準據し可差出此旨相達候事

説明書

第一條 郡名の條に載する人口以下之各郡に就ての總數
及び其名目(物産等)を載せ之を細別之又人口一百以上の
部にも再記をべし

第二條 人口一百以上幅帳とは連檣櫛比群居する者を指
す點々散居する者を合算するに非也

第三條 人口一百以上に上る地の二三村に跨る者は土俗
の稱呼最多方に從て之を擧げ其他れ人口戸數等を之に
合算其傍に但何村何戸何人何村何戸何人何村何戸何人合何戸
何人是を土俗何驛(町村)と唱ふる等の意を記をべし(附箋)

若くは欄外に書するも妨るし

但何人にも知得せると認定する宿驛等は此限に非ず

第四條 人口一百以上幅狭地中にて電信局及び郵便局

ある者及び電信線路に當る者は離形の通り其地名の上

に左れ符號と記すべし

郵便局

電信

○一等

局

×二等

二線路

△三等

□四等

四五等

第五條 物産の區には米、麥、雜穀、蔬菜、食獸、魚類、乾物、及び木

材、薪、炭等の如き兵事に必要なる者にして多量に産する

者悉く擧て密に其名を記すべし

第六條 戸數、人口、其他の件々は凡て一月一日に於て前年

の分を調査し郡役所に於て管内各町村に分を纏めて製

表し其年二月十五日限り差出すべし

第七條 電線を除くの外、の計算は凡て數字を用ゆべし而

して千位には位點を施すべし

但第三條に當る付箋若くは欄外若くは但書等は此限にあらざ

布達之寫

人口物産牛馬車船電線郵便表

何	人口		物産	牛	馬	荷車	人力車	船	船舶	電信	里數	郵便局				
	男	女														
何	一、二三四	一、三二一	何々	一	二	三	一、二〇五	一八	八里五廿	間四尺	一					
地名	戸數	人	口	物	産	官	廨	寺院	學校	屠場	水車	牛	馬	車	船	船舶
何	一八二	男 二六三	女 二五八	一	三	六	一	一	一	一	一	一	乘 駄	半馬	日本形	西洋形

人口一百以上輻輳地

但何町(村)何戸何人何村(町)合何戸何人何俗何と唱ふ

○乙第二百二十四號全 十九日

郡役所

警察本署及び警察署職制並に事務章程別紙の通り相定候
條爲心得此旨相達候事

職制

警察本署
警察本署は行政司法警察及び檢察事務を執行し管内
各警察署を統轄する處とす

本署長 一員
第一 警察本署長は事務章程に據り本署一切の事務を
總理え及び各警察署の事務を監督することと掌る
第二 警察本署長は警保課長の監督に属すと雖も擔任

の事務に付ては直に本局の指揮を受く

第三 警察本署長は各警察署長以下を監督す

第四 警察本署長は本署在勤警部並に各警察署長の進退に意見あれば警保課長を経員申するを得其巡查の褒貶黜陟は該署長の意見を取り具状するを要す

第五 警察本署長は署務を各員に分附し豫て分掌を設け便宜料理するを得

第六 警察本署長は管掌の事務其規則達等を以て專任を受けたる事件之直に之を處行し又は郡長局長及び他府縣警察署へ照會往復するを得

第七 警察本署長は管掌の事務に付便否得失の意見を具申するを得

定員を便宜之を置く

第一 警部は本署長輔け署務を分掌す

第二 本署長不在又は事故あるときは高等の警部其職務を代理し同等數人あを心上席に者之に任す

第三 警部は警察事務の便否得失意見あれば本署長及び警保課長を経て具申するを得

警署

警察署は本署の節度を受け部内の行政司法警察の事務を執行する處とす

署長 一員 警部之に任す

第一 警察署長は事務章程に據り署中一切の事務を總理することとす

第二 警察署長は警察本署長の監督に屬すと雖ども擔任は事務に付ては本局又は警保課長の指揮を受けることとす

第三 警察署長は在勤巡查を監督とす

第四 警察署長は在勤巡查の進退黜陟の事を本署長に具狀とす

第五 警察署長は管掌の事務其規則達等を以て專任を受けたる事件は直に之を處行え又は郡長戸長を照會往復とす

第六 警察署長は擔任の事務を執行する爲非常急遽の場合に於ては直に他府縣警察署へ移牒するを得而して執行の後直に本署長に報告とす

第七 警察署長は管掌の事務に付便否得失の意見あれば本署長及び警保課長を経て具申するを得

巡査

第一 署長の指揮を受け部内を巡視監査することを掌る

第二 署長不在又と事故あるときは高等に巡査其職務を代理と同等数人あきば上席の者之に任す

事務章程

警察本署

第一條 行政司法警察實施の規程順序と設くる事

第二條 巡査服役れ方法を定むる事

第三條 檢察事務の事

第四條 各警察署を巡視監督する事

第五條 巡査の賞罰褒貶黜陟の事

第六條 警察署に位置區畫巡査配置の事

第七條 警察に係る褒賞の事

第八條 巡査試験の事

第九條 賣淫處分の事

第十條 署費出納の事

警察署

第一條 部内巡視監査の事

第二條 犯罪者探偵捕獲の事

布達之爲

第三條 巡查服役方法及び巡回路線下調の事

第四條 違註罪處分の事

第五條 遺失物並に漂流物難破船處分の事

第六條 戸口調査の事

第七條 巡查諸願届の事

第八條 署費出納の事

右の外別段の布達達を以て取扱を命ぜる事件は布達に依
從事すべし

○乙第百二十五號全廿三日

郡役所

本年甲第百三號布達地方税營業雜種税徵收規則第十五條
中諸興行にきて觀覽物市在持回りの儀願出差許候分は興
行滿期の節許可したる郡役所に於て税金徵收候儀と心得
べし此旨相達候事

但本文興行中日々揚高帳簿に記入其所町村戸長之檢印
を受滿期に至らば鑑札及び右帳簿相添税金可相納旨指
揮とべし

○乙第百二十六號全廿四日

町村郡役所

明治十年乙第三十八號達戸籍其他總計書式中左の條々改
正増加候條各町村よりは毎年一月一日現在の人員を去て

總計去同月十五日限り所轄郡役所へ差出之郡役所に於ては更ニ全郡に總計を調製去同月三十日限り無相違當廳へ差出すべし此旨相達候事

(朱) 戸籍總計中年齡の別も男女と改正

七年未滿

七年以上

廿年以上

五十年以上

八十年以上

(朱) 他管轄へ出寄留他管轄より入寄留總計中増加人員總計

の未へ

人員總計の内

出生幾人

内

男幾人
女幾人

人員總計此外

死生幾人

内

男幾人
女幾人

○乙第百二十七號全日

郡町村役所

内務省山林局本縣出張所あて左に各前記者管林十等監守申付候趣通報有之候條為心得此旨相達候事

北巨摩郡秋田村平民

清水松太郎

○乙第百二十八號全廿五日

郡町村役所

内務省山林局本縣出張所に於て左に兩名に者官林十等監
守申付候趣通報有之候條爲心得此旨相達候事

東山梨郡中牧村平民

武藤光微

西山梨郡甲運村平民

小倉猪八郎

○乙第百二十九號全廿六日

郡町村役所

榎木縣人民各縣下へ寄留の者はまで本籍より寄留証差出
候向も有之候處自今該証書差出不相成本人より寄留地戸

長役場へ可屈出旨達置候段該縣より通知有之候條爲心得

此旨相達候事

○乙第百三十號全日

郡町村役所

官省使布告布達書送達の儀本年丙第拾四號を以て相達置
候處右相癒之自今總て郡役所を経て配達候條此旨相達候
事

○乙第百三十一號全日

郡町村役所

本年乙第四拾七號達書第一項左の通り改正候條此旨相達
候事

一當座より直ちに各郡町村役所へ達する公用書類に係る

郵便別仕立賃は町村役所に於て操替置仕譯書並領收証を毎季(七月より九月迄の類)の翌月五日迄に郡役所へ取纏め同十日限り受取方申出べし

○乙第三百三十二號全 廿七日

郡役所

今般甲第百八十九號布達候に付ては本年乙第百十九號達は消滅候儀と可相心得此旨相達候事

○丙第三十五號全 十三日

郡町村役所

社寺遞減祿に係る元朱印除地及び私墾地高反別等調達候漏等有之候ては不都合に付取調に儀本年丙第三十一號を

以て相達其後村限調書及び延期共郡役所より相達置候處猶本月二十五日迄延期候條否無相違可申出若し同日迄に何等の申出も無之分は誤脱等無之ものと見做し爾後如何様の事情申出候共一切採用不致候條各祠官住職等へ至急無漏可致通達此旨相達候事

○山梨縣衛生報告第三十號全 二十七日

雜報

○蠱毒の血統を汚穢し子孫に苛毒を遺殘するを以て其恐るべきとは衆人の畧ば悟了する時運に至れり然れども猶

は其治療の心得方に至ては大に誤まる者多故に今茲に
 其誤るる事件を告示せんと夫れ偶々黴毒に感傳せる者
 に洗滌藥膏藥杯を施せば其毒内攻去て口鼻咽喉杯を侵襲
 する者ど亦去清淨にすることを排斥去て唯だ治を内藥に
 のみ専求して身体外部の治療を爲さざる愚かにも某家の相
 傳をどと稱ふる藥劑中には汞類を合を隠用去て其藥れ爲
 めに害と招く者之あり而して其瘡所の腐蝕去て膿汁を流
 すに至るも捨て顧みず益々其病毒の内攻を逞うせしむ抑
 も黴毒は陰部杯外より身体中に襲入する者あれば病
 初只其毒一小局所に止まり未だ他所に蔓延せざる際其局

所の處置を充分に行ふ時は内藥は要せしめて治癒に趣く
 ものあり故に人黴毒に感傳する時は妄に内外藥を用ふる
 と亦く其感傳せる瘡所を微温湯或ひは清水にて能く洗滌
 し綿花の類を以て適宜に其部と掩保去醫を撰みて治療を
 求むべし
 因に云ふ世人陰部に發瘡することあれば直に黴毒どの
 み想像する者あれども陰部に發瘡すればとて必ず黴毒
 と定りたる者に非ざるあり既に縣下飯沼村小林忠藏
 る者は陰莖に年久ま久く内皮膚癩花瘡を發せしを黴毒と
 想像去治療を施せども元來其毒に非ざるを以て効驗あ

去依て去る六月十九日病院に投トて陰莖截斷術を請不
 日に去て快癒退院せり夫れ世上には間々斯の如き患者
 もある者なれば是等のことは豫て心得おき無益の想像
 をなま無益の治療を施ま無益の費用をあすこと勿れ
 ○世人の漆れ木又生漆に近接せしとあくまて往々漆瘡を
 患ひ困難する者あり是等と大抵塗立の膳枕の類を使用
 えて之よ更感受するに由る者多ま故に感受ま易き性質れ
 人は右等の漆器は注意まて使用そべあらず人若ま感受せ
 し時は宜しく温覆まて冷風濕氣等に觸色ざる様にすべま
 時として全身浮腫して疥癬内攻の如き症候を發する者あ

ればなり

精進寺

(定價金九錢)

甲府常盤町四番地
傍訓並出版人 内藤傳右衛門

明治十三年二月

軍令部

附屬部
軍令部

軍令部

